第41回日本証券アナリスト大会



開　会　の　辞

公益社団法人 日本証券アナリスト協会
会長 鳥　海　智　絵 CMA

本日は、第41回日本証券アナリスト大会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

この大会は、日本証券アナリスト協会の「認定アナリスト」であるCMAの役割を広く社会に認知していただくとともに、CMAの自己研鑽と相互交流を目的として、1986年以来、毎年開催している大変意義深い集まりです。

今年の大会テーマは、「生成AIと金融の共創：アナリストの新たな価値創造」です。

足元、AI等の技術進歩は目覚ましく、日本でも各分野の企業においてビジネスプロセスの効率化にとどまらず、新たな商品の開発、顧客や市場の開拓、事業ポートフォリオの変革を含め、AIの実装による抜本的な経営戦略の再構築が求められています。

また、最近になって、AIをめぐる米国と中国の競争は、経済や安全保障を左右する国家間の競争という様相を強めています。一方で、AIの能力が急速に進化する中で、開発スピードそのものに歯止めが必要ではないか、人間が本当にコントロールし続けられるのか、という議論も急速に高まっています。「AIをいかにうまく、早く使うか」から、「どこまでAIに任せて、どこから人間が判断するのか」が問われるタイミングが、思った以上に早く来ているのかもしれません。

こうしたなか、生成AI等の技術は、金融・資本市場に新たな地平を開いています。アナリストの仕事においても生成AIの実装化が進展し、データ分析の高度化・高速化、企業情報に含まれる非構造化データの活用、投資判断プロセスの変容など、大きな転換点にあります。

同時に、生成AIは、最終的な判断の質や倫理性、企業との対話を通じた深い理解といった

人間にしか担えない価値の重要性を改めて浮き彫りにしています。テクノロジーとアナリストとしての専門性が合わさることで新たな価値創造が可能になる時代が到来した、このように感じています。

生成AIを活用し、われわれの専門性を深化させ、それらをどう新たな価値創造に結び付けていくか。その問いに向き合うべく、今回の大会も、国内外の第一線でご活躍されている皆さまを講師にお招きいたしました。

記念講演は、お二人の方にお願いいたしました。

まず、NTTデータ　代表取締役社長の鈴木正範様に「AI時代の価値創造で、日本を元気に」というテーマでご講演いただきます。

また、慶應義塾大学環境情報学部教授で、LINEヤフー　シニアストラテジストの安宅和人様には、「残すに値する未来を考える」というテーマでご講演いただきます。

記念講演に続く対談では、大会テーマでもある「生成AIと金融の共創：アナリストの新たな価値創造」と題して、ニッセイアセットマネジメント　データ・AI&クオンツリサーチヘッド　鹿子木享紀様、JPモルガン証券　マネジングディレクター、チーフ株式ストラテジストの西原里江様にご登壇いただきます。

わたくしも大変楽しみにしております。

ここで一言、若い参加者の皆さまへ。本日は大学生の方や、中にはすでに試験に合格され、実務や研究に意欲を持つ方もいらっしゃると伺っています。

会場でご参加の方は、懇親会もありますので遠慮せず多くの方と交流して、「アナリストの何が面白いですか？」といった問いをしてみてください。答えはいろいろだと思いますが、その「いろいろ」な答えがアナリストの面白さ、と言えるようにも思います。

ここで、協会の現況について申し上げますと、現在、CMA資格の保有者数は、３万人に達しようとしています。

これも60年の活動の到達点としての達成であり、これまでの諸先輩、現在の会員の皆さまの努力の賜物です。今後の人口減少社会で、会員数が右肩上がりで増えることは想像しがたいわけですが、同時に、協会としてCMAの数を増やし続けることだけが目標だとも思っていません。人口が減少し、AIによって仕事のあり方も変わっていく中で、「CMAが何人いるか」よ

りも「CMAが社会でどのような価値を生み出しているか」、これを追求したいと思います。

改めて申し上げるまでもなく、CMAは、金融業界にとどまらず、事業会社やアカデミアなど、幅広いフィールドにおいて、資産運用、調査・研究、財務、IR、営業など、さまざまな分野で活躍しています。それぞれのお立場からのニーズに応えるべく、協会としても試験のカリキュラムやセミナーなどの見直しを進めています。

今後も金融・資本市場のダイナミックな変化に柔軟に対応しながら、協会の社会的使命をしっかり果たしていきたいと考えております。皆さまの一層のご協力とご支援をお願い申し上げます。

最後に、本大会の企画・運営にご尽力いただいた第41回の大会実行委員長である磯光裕委員長をはじめ大会実行委員の方々にはこの場をお借りし、心から御礼を申し上げます。

本大会が皆さまにとって、実り多く、有意義な学びと交流の場となりますことを心より祈念しまして、わたくしの開会挨拶といたします。

本日はよろしくお願いいたします。